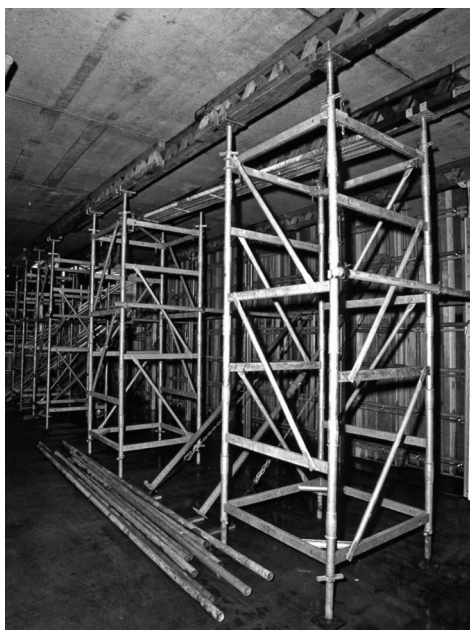
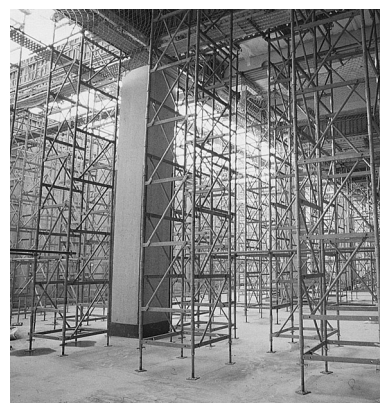
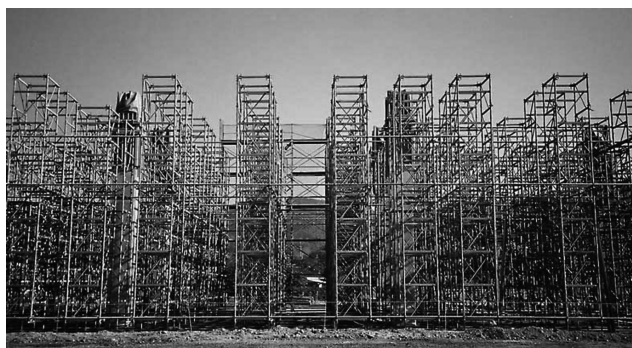


ショアリングタワー ST-100・ST-60

ST-100ショアリングタワーは新しいタイプの支保工です。スタッキングフレームという軽量コンパクト(高さ50cm、重さ7kg)な部材をカップに差し込み重ねるだけの単純組立で、はじめての方でも簡単に組立てることができます。基本構成部材はわずか7点! 作業有効スペースも広くとれ、吊って移動できるので、作業性が大幅に向上し工期短縮が可能になります。

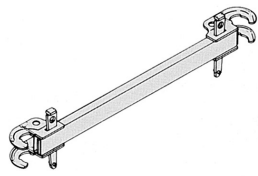
ST-100ショアリングタワーは物流センター、体育館、ホール等の階高が高く重荷重の梁、スラブの支保工として最適です。



特長

- 1) 単純組立……スタッキングフレームを積み上げるだけです。
- 2) 単純管理……基本構成部材はわずか7点! 部材管理がとても簡単です。
- 3) 高効率移動…揚重機でタワー支保工のまま吊って移動ができます。
- 4) 重荷重対応…1タワー最大216KN(タワー式支保工Ⅰの場合)なのでスパンがとばせ、作業スペースが広くとれます。
- 5) 工期短縮……単純組立、高効率移動できるので作業性が大幅に向上します。

1タワー22t!
 どんな高さでも50cmのスタッキングフレームを
 積み上げるだけで簡単に組立てることができます。

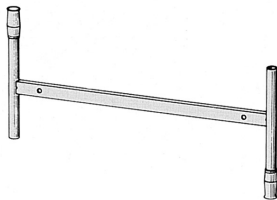


エンドサポート

ST-10ES...6.3kg
 ST-06ES...5.1kg

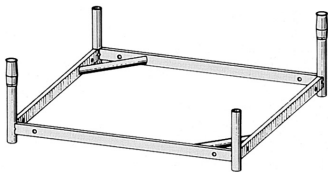
スタッキングフレーム

ST-105F...7.0kg
 ST-065F...6.8kg



ベースアンドヘッドフレーム

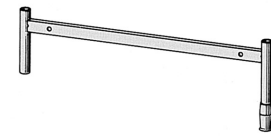
ST-1010B...16.8kg
 ST-0606B...12.0kg



アルマビーム・ストリンガー
 (アルマボルトにて固定)
 D42、D43を参照

ヘッドスピンドル

ST-70HD...5.5kg
 ST-70H...5.5kg



エンドフレーム

ST-10EF...5.1kg
 ST-06EF...3.9kg



ダイアゴナルストラット

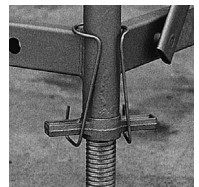
ST-10DS...2.3kg
 ST-06DS...1.9kg

ベーススピンドル

ST-70BD...5.0kg
 ST-70B...5.0kg

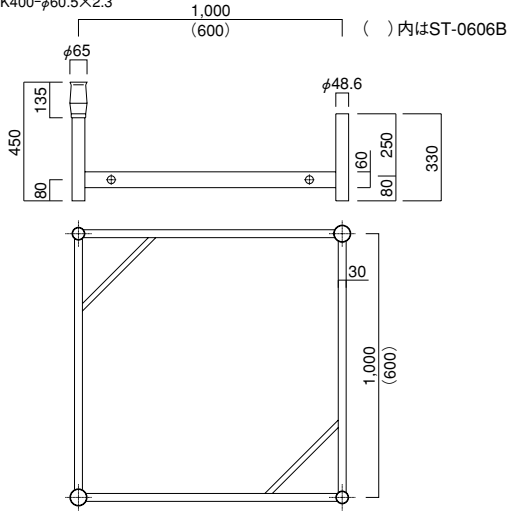


セーフティストラップで
 安全に吊れます。



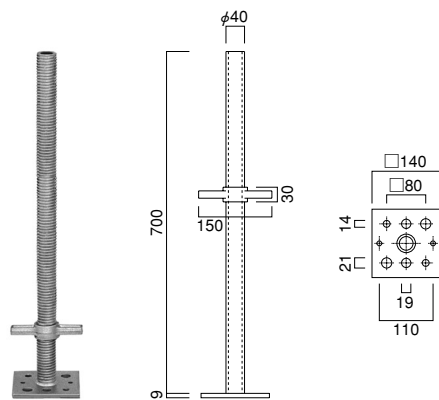
ベースアンドヘッドフレーム ST-1010B...16.8kg
ST-0606B...12.0kg

使用鋼管=STK400-φ48.6×3.2
STK400-φ60.5×2.3



ベーススピンドル ST-70BD...5.0kg
ST-70B...5.0kg

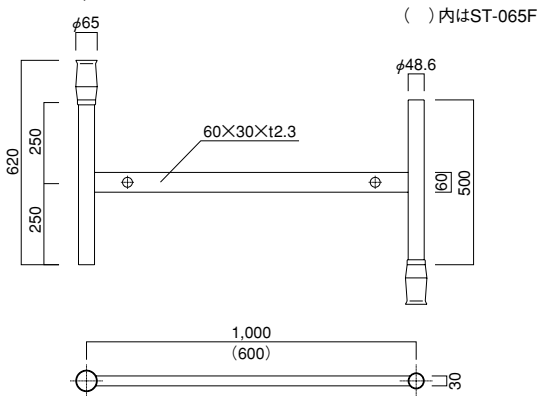
※D=溶融亜鉛メッキ



調整長は100~550mm

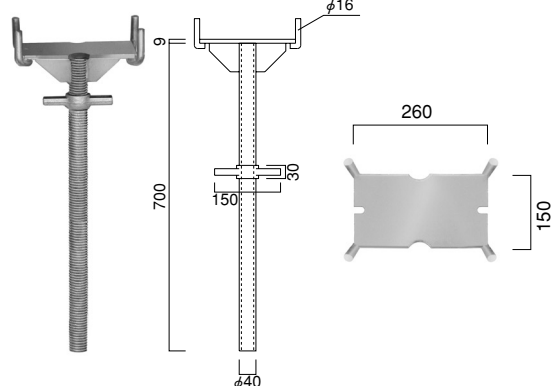
スタッキングフレーム ST-105F...7.0kg
ST-065F...6.8kg

使用鋼管=STK400-φ48.6×3.2
STK400-φ60.5×2.3



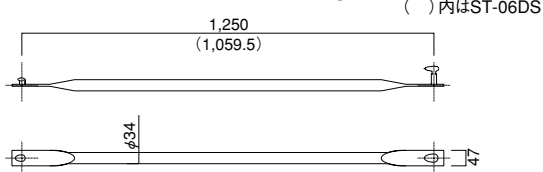
ヘッドスピンドル ST-70HD...5.5kg
ST-70H...5.5kg

※D=溶融亜鉛メッキ



調整長は100~550mm

ダイアゴナルストラット ST-10DS...2.3kg
ST-06DS...1.9kg

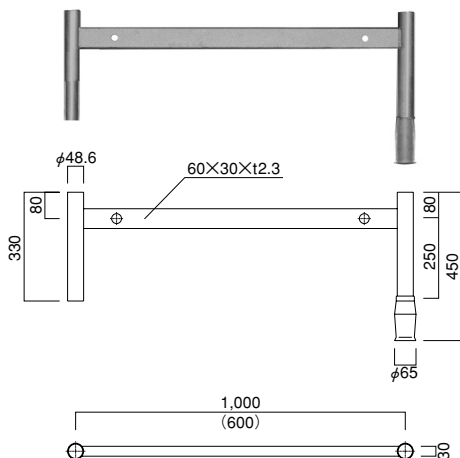


セーフティストラップ ST-SS...0.07kg



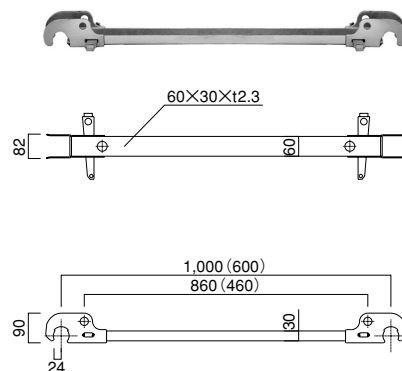
エンドフレーム ST-10EF...5.1kg ST-06EF...3.9kg

使用鋼管=STK400-φ48.6×3.2
STK400-φ60.5×2.3



エンドサポート ST-10ES...6.3kg
ST-06ES...5.1kg

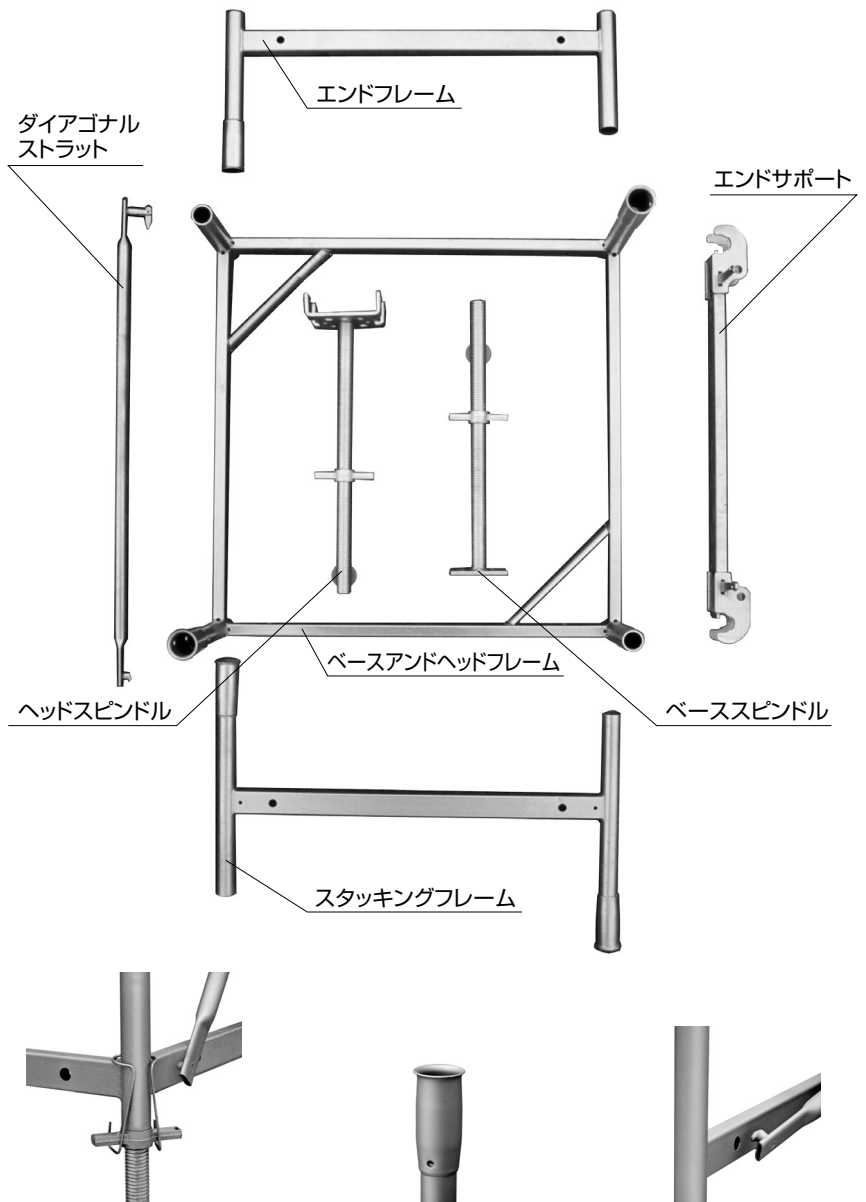
()内はST-06ES



■ショアリングタワーの基本部材



■タワーは転用も簡単!



セーフティストラップ
で安全に吊れます。

■組立てが簡単な秘密は
このカップ

■ダイアゴナルストラット
(プレース)

■ショアリングタワーの積載荷重

種類	積載荷重	
タワー式支保工 I	タワーのみの場合 高さ20m以下	216kN (53.9t/1支柱)
	高さ30m以下	186kN (46.6 t/1支柱)
	高さ40m以下	157kN (39.2t/1支柱)
	梁受けフレーム Iを併用する場合	118kN (29.4t/1支柱)
タワー式支保工 II	235kN (29.4t/1支柱)	
タワー式支保工 III	157kN (39.2t/1支柱)	

■スピンドル使用長によるタワーの積載荷重の変化

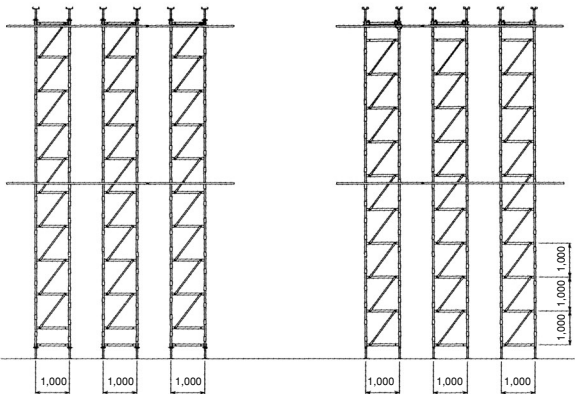
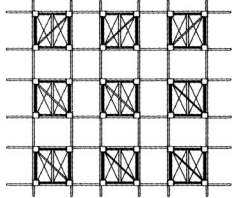
スピンドル使用長	積載荷重	
	タワー式支保工 I・II	タワー式支保工 III
0~450mm	53.9kN/1支柱 以下	39.2kN/1支柱 以下
451~550mm	39.2kN/1支柱 以下	29.4kN/1支柱 以下

ただし、スピンドル使用長によるタワーの積載荷重の変化とショアリングタワーの積載荷重を比較検討した場合、どちらかの弱い荷重のほうを採用する。

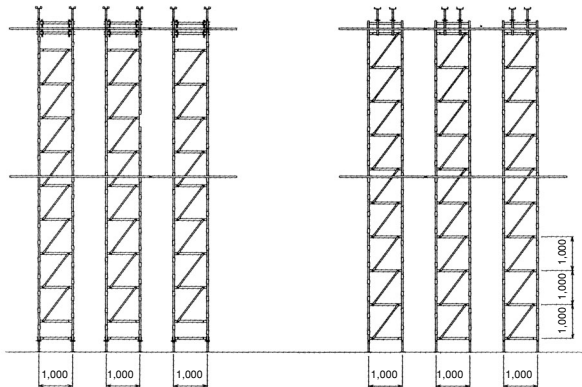
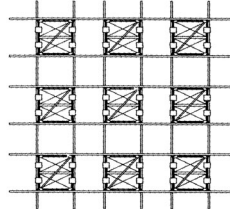
タワー式支保工 I

最もスタンダードな組み方で、ベースアンドヘッドフレームにH型の枠材スタッキングフレームを対面2構面ずつ交互に組上げ、四構面にダイアゴナルストラットを取付けた構造です。

- 上端…エンドフレーム、エンドサポート使用
四面にダイアゴナルストラットあり



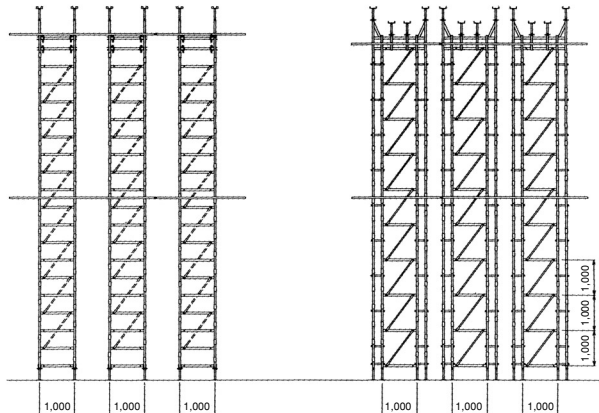
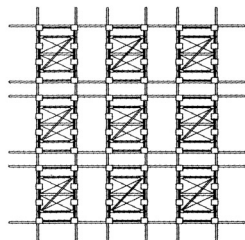
- 上端…梁受フレーム I、エンドサポート使用
四面にダイアゴナルストラットあり



タワー式支保工 II

梁とスラブを同時に支持するタイプの支保工です。タワー式支保工 I の構造に両脇に、スタッキングフレームを積み上げた構面を付け加え、上端には梁受フレーム II を取付けた構造になっています。

- 上端…梁受フレーム II、エンドサポート使用
四面にダイアゴナルストラットあり

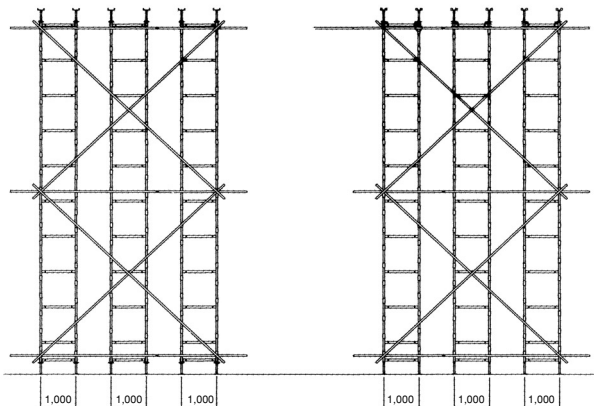
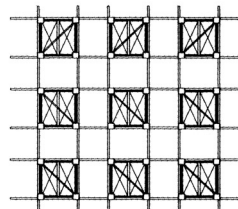


タワー式支保工 III

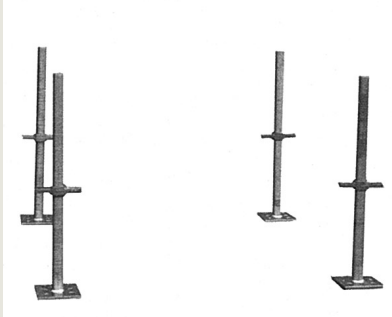
タワー式支保工 I の構造からダイアゴナルストラットを除き、代わりに単管水平つなぎと単管ブレースを使ってタワー全体の安定性と強度を確保するようにしたものである。

※水平つなぎの変位防止を必ず設けること。大ブレースを設ける時は、タワー3基以下毎に設置する。

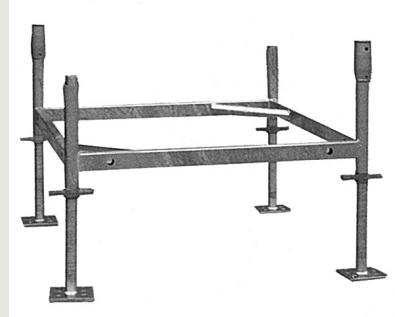
- 上端…エンドフレーム、エンドサポート使用
四面にダイアゴナルストラットなし



組立方法-1



①ベーススピンドルを並べます。



②ベースアンドヘッドフレームを差し込みます。



③スタッキングフレームを差し込みます。



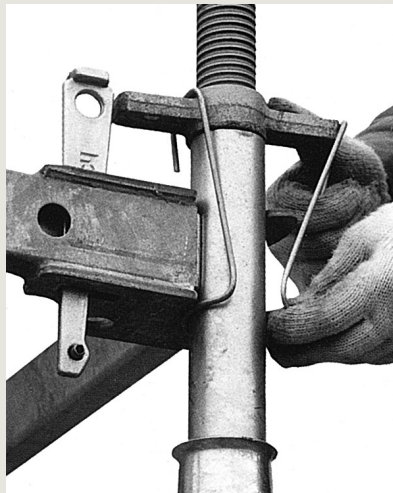
④ダイアゴナルストラットを取付けます。タワー上端部分になるまで③④の作業を繰り返します。高所では枠足場、高所作業台、高所作業車等を利用します。



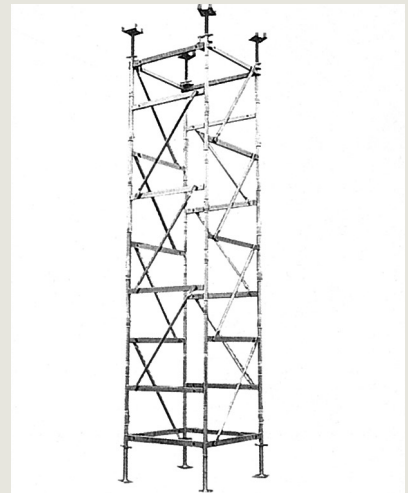
⑤エンドフレーム、エンドサポートを差し込みます。



⑥エンドサポートを固定しヘッドスピンドルを差し込みます。



⑦セーフティストラップでヘッドスピンドルを固定します。



⑧完成です。揚重機で所定の位置まで吊り込みます。

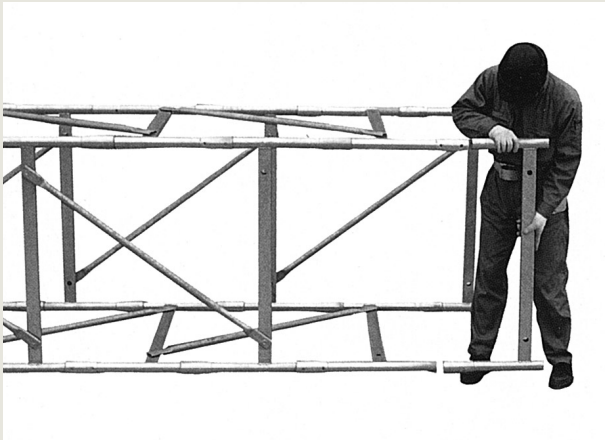
組立方法-2



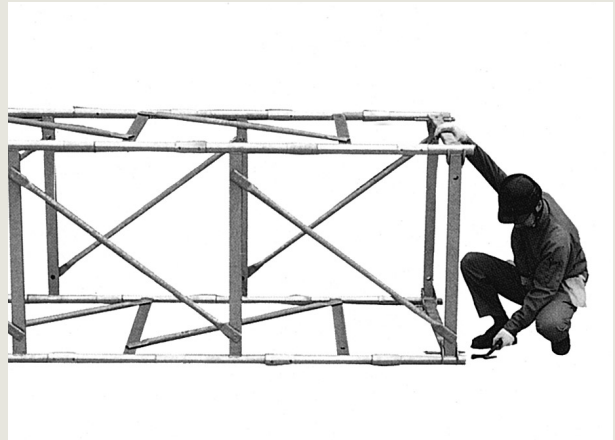
①ベースアンドヘッドフレームにベーススピンドルを差し込み、セーフティストラップで固定します。



②スタッキングフレームを対面する2構面ずつ差し込み、ダイアゴナルストラットを取付けます。タワーの必要高さまでこの作業を繰り返します。



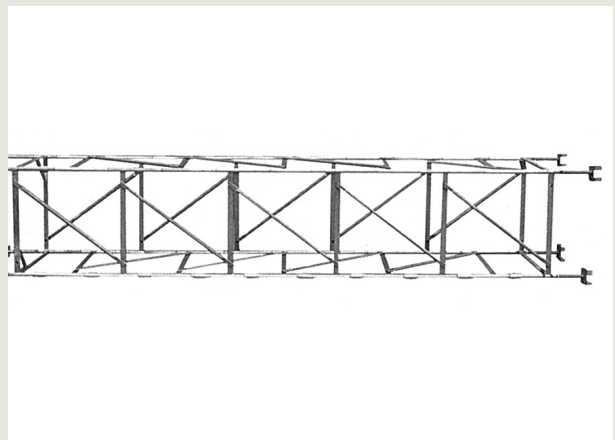
③タワー上端部分にきたらエンドフレームを差し込み、ダイアゴナルストラットを取付けます。



④エンドフレームに直交する面にエンドサポートを取付けます。



⑤ヘッドスピンドルを差し込み、セーフティストラップで固定します。



⑥完成です。この後、揚重機で吊って建込み位置まで移動します。